

環境改善調査研究の事後評価結果

実施課題：地域ごとの光化学オキシダントに関する研究のレビューとそのとりまとめに関する調査研究
 実施機関：一般財団法人日本環境衛生センター

1. 評価点

(採点基準)5:大変優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣っている 1:劣っている

	5	4	3	2	1
(1)大気環境改善対策の推進への貢献度	3人	0人	1人	0人	0人
(2)研究成果目標の達成度	3人	1人	0人	0人	0人
(3)研究計画の妥当性	2人	2人	0人	0人	0人
(4)研究内容の独自性	1人	2人	1人	0人	0人
(5)社会・経済または学術に対する貢献度	1人	2人	1人	0人	0人
(6)総合評価	2人	1人	1人	0人	0人
全体評価点				4.33	

2. 記述評価(委員コメント)

・光化学オキシダントに関する研究レビューのみならず再解析も実施されており、得られた成果の今後の活用が期待出来る。

【総論】

当初の目標をほぼ達成しており、また、大気環境行政の推進に資する有用な知見が得られている。特に、2年度目を実施した3種類の再解析では、最近のOxの変化要因に関する新たな結果が得られている。今後、解析を進め、論文等に発表されることを期待する。一方、「地域独自のオキシダント対策や前駆物質の削減等の大気汚染対策に関して収集された情報」(スライド14)は限定的であるが、調査したこと自体に意義があると考えられる。

【各論】

・スライド13

「前駆物質の排出量の削減効果が見られていた」の根拠は、主としてDPOxの解析結果によると思われるが、「削減効果」と結論付けるためには、解析局の地域代表性、前駆物質の変化と対応しているか、などに関する慎重な解析が必要であろう。

・スライド31

地域、春・夏、I～III期によってかなり傾向が異なっていることから、結果の解釈に注意する必要があるであろう。加えて、スライド26-30における「排出量の削減効果が見られたと考えられる」という、やや断定的な表現の妥当性についても検討されたい。

・光化学オキシダント濃度に関連する文献情報と最近の大気測定データを利用することで、これまで各地方公共団体で行われて来たオキシダント対策の効果検証に役立てるための情報を提供している点が評価される。

新型コロナ禍により、この期間の内外における各種活動量が低下することで、オキシダントの生成要因物質の排出が変化し、結果的にオキシダント濃度に影響するものと予想され、その面でのより詳しい生成要因の考察が求められる。

調査の成果については、各地方公共団体における今後のオキシダント対策にどのように生かすかをより具体的に提案されることが期待される。

・研究の目的が明確でかつフォーカスの絞り方が的確であったことと、光化学オキシダントによる大気汚染現象に関する最近の知見が収斂しつつあるこの時期にレビューを行ったことから、本報告書は非常によいまとまりを持てた。再生機構及び委託事業者日本環境衛生センターの努力を多としたい。本研究で集約された汚染機構解明に係る理工学的な知見を踏まえ、今後、光化学オキシダントによる健康影響に関する最新の医学的知見の評価が行われ、前駆物質の排出抑制対策の点検が行われるなどにより、光化学オキシダント対策が一層適切に講じられることを望みたい。